

進捗状況の概要 ※得られたアウトカムを含む構想の実現の観点から記載すること【1ページ】

本事業は「日本が、保健医療分野において、世界規模での健康レベル向上にむけて、経験/実績を踏まえて貢献し、世界とともに発展的存続を実現する（社会的インパクト）ために中心となる、グローバルヘルス推進人材を育成する（中/長期アウトカム）」を構想的とし、目的達成のための取組（アクティビティ）として「ガバナンス体制強化/教学マネジメント改革」を行い、「教育改革」および「海外拠点を活用した積極的な教育研究展開」を推進している。進捗状況として、アクティビティ履行状況とアウトプットをまとめる。

構想実現のための基盤となる体制構築「ガバナンス体制強化/教学マネジメント改革」の進捗状況：

- 学長の強いリーダーシップの下、平成 27 年度から「統合機構システム」を順次導入し、大学の各業務（大学改革・研究・教育・診療・国際交流・情報システム）を統合的に管理・支援する体制を整備した。統合教育機構と統合国際機構が連携し、本事業の推進、および教育および国際化に関する大学理念実現に向けて取り組んでいる。

「教育改革」の進捗状況：

- 【学士課程】統合教育機構の指示および指導のもと、本事業構想が反映された第 3 期中期目標達成のための中期計画の一環として、学士課程各学科専攻においてディプロマポリシーおよびアドミッションポリシーの見直しを行い、特に後者にもとづき平成 30 年度入試（平成 30 年 4 月入学）より特別選抜として推薦入試、国際バカロレア入試、帰国生入試を導入した。教養教育において、平成 28 年度より人文社会系科目を中心に二カ国語履修化を開始/拡大した（令和元年度は 18 科目）。教養/専門課程を通して、少人数教育環境創出・反転授業の導入/拡大を通じたアクティブラーニングを導入/拡大、令和元年度には学士課程科目の 91.8%でアクティブラーニングが実施された。海外留学機会拡大のためにカリキュラム調整および海外提携校増数/海外拠点積極活用を行い、さらに報告会などを通じた動機づけにより、卒業生に占める海外経験者率は、令和 5 年度目標を令和元年度に達成した。さらに、生命科学研究・国際保健/医療政策・医療産業分野のグローバルリーダー養成のための英語選抜プログラム Health Sciences Leadership Program (HSLP) の参加形態の多様化と内容充実を図り、全学部学科から優秀で強い志を持つ学生が多数履修している。
- 【修士/博士課程】コースワークの英語化を進め（令和元年度開設科目の 60%が英語履修可能）、外国語のみで卒業できるコースも増数（令和元年度は 14 コース）、大学院版 HSLP の開講（平成 28 年度）、完全英語履修のグローバルヘルスリーダー養成（MPH）コース（修士）/グローバルヘルスプロフェッショナル（GHP）コース（博士）をそれぞれ平成 30 年度、令和 2 年度に開講、さらに、チリ大学（平成 28 年度）、チュラロンコン大学（タイ、平成 28 年度）、マヒドン大学（タイ、令和 2 年度）とのジョイント・ディグリー・プログラム（JDP）を開設した。

「海外拠点を活用した積極的な教育研究展開」の進捗状況：

- 統合国際機構のグローバル教育推進チーム・海外拠点チームが連携し、本学海外教育研究協力拠点を活用した積極的な教育研究展開推進の支援/先導を進めている。「海外教育研究協力拠点となるフィールド機関を、フィールド基盤型研究体制構築可能性、複数の研究プロジェクト実施可能性、二次データ取得体制、そして国際共同研究推進体制整備という点から、戦略的に選定し増数する」との拠点増数戦略基準にもとづき、ガーナ、チリ、タイの 3 つの海外拠点に加え、第 4 の拠点をアメリカに設置することを検討しており、機関間国際交流協定を締結し（平成 27 年度にネバダ大学リノ校医学部、平成 30 年度にカリフォルニア大学サンディエゴ校、令和元年度に南カリフォルニア大学と協定締結）、学生派遣交流や共同研究を活発化させることにより拠点開設に繋がるものと期待される。

「国際的評価の向上」「国際的評価に関する教育・研究力（国際的評価にて強みのある分野の有無）」の進捗状況：

- 新設された統合研究機構による、IR データにもとづく最重点研究領域への資源集中による研究力強化、最先端研究拠点の形成、臨床研究体制の構築による臨床研究及び医師主導型治験の増加、産業界との共同研究や包括連携の促進、大学発ベンチャーの創出などを進めてきた。また、健康長寿社会の実現に向け先制医療/個別医療を推進するための研究強化のため、本学大学院を統合先制医歯保健学拠点とすべく改組した。
- 医療系総合大学である本学は、「世界大学ランキングの医学分野ランキングをトップ 100 まで向上させる」ことを第 3 期中期目標に掲げており、QS 分野別世界大学ランキングで医学分野が令和元年に 51-100 位（日本 3 位タイ）、歯学分野が令和 2 年に 6 位（日本 1 位）に入った。THE 分野別世界大学ランキング 2020 でも、「臨床、前臨床および健康」分野で世界 74 位、日本 3 位の高評価を獲得した。

「共通の成果指標と達成目標」の進捗状況：

- 数値目標が掲げられた項目のほとんどで目標を達成しており、目標に至っていない項目についても今後目標達成が十分見込まれる。数値目標が掲げられていない項目についても、目標達成に向けて着実に進んでいる。

「大学独自の成果指標と達成目標」の進捗状況：

- 【(学士) 卒業生に占める海外経験者の割合】【HSLP 履修者数】では令和 5 年度目標を達成しており、【全大学院生に占める外国人留学生の割合】【グローバルヘルスリーダー養成コース履修者数】も着実にマイルストーンを達成した。

財政支援期間終了後を見据えた自走化の進捗状況：

- 国際通用性向上・国際競争力強化につながる制度変更/組織改編/大学院改組を推し進め、組織文化の醸成/浸透に努め、国際化取組を着実に実施し、大学全体の自己収入を増加させ資金の安定的確保を可能とすることにより、財政支援期間終了後を見据えた本事業内容の自走化を順調に進めている。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ】

ジョイント・ディグリー・プログラム（JDP）設置・海外拠点活動拡大

教育理念の一つである「国際性豊かな医療人の育成」を推進するとともに、国際競争力を強化するため、平成28年4月より、ジョイント・ディグリー・プログラム（JDP）となる「東京医科歯科大学・チリ大学国際連携医学系専攻」、平成28年8月より「東京医科歯科大学・チュラロンコン大学国際連携歯学系専攻」を開設し、国際共同教育と人材育成を開始した。令和2年4月には、タイのマヒドン大学シリラート病院医学部とのJDPを開設した。これらJDP設置により、当該国だけでなく世界の医療の発展に資する人材を養成することが可能となるだけでなく、我が国の国際的なプレゼンスの向上、我が国とタイ国・ASEAN地域との連携の強化に繋がること期待される。

また、カリフォルニア大学サンディエゴ校（UCSD）及び南カリフォルニア大学（USC）との交流を深めており、医・歯学研究面での情報交換を主な目的として、平成30年度に「1st TMDU-UCSD-USC Joint Symposium」を本学で開催した。UCSDとは、平成30年9月に大学間協定を締結し、USCとも令和元年4月に大学間協定を締結した。また、令和元年度には、UCSD及びUSCから学生や教員を招いてISP（国際サマープログラム）を開催し、本学の教員や学生との交流を深めた。UCSDとはお互いにサテライトオフィスを設置する方向で検討を開始しており、アメリカでの本学の拠点開設に繋がるものと期待されている。

グローバルヘルスリーダー養成（MPH）コース・グローバルヘルスプロフェッショナル（GHP）コース開設（いずれも完全英語履修）

本構想の目的となっている「国際的な視野を備えグローバルヘルスという視点から世界規模での健康レベル向上に貢献できるリーダー」を育成するため、平成30年4月、本学医歯学総合研究科修士課程医歯理工保健学専攻内に、完全英語履修のグローバルヘルスリーダー養成（MPH）コースを開設した。将来、地球規模の健康問題を解決できるリサーチコンピテンスを有するリーダーとなる人材を目指す学生が、国内のみならず、アジア、アフリカ、中南米地域から入学している。

本コースは、グローバルヘルス関連分野でトップレベルのジョンズ・ホプキンス大学、ハーバード大学、その他国内外の大学、研究機関等からトップクラスの経験と実績を持つ外部講師を数多く招聘し、クオリティの高い最先端の授業を提供している。さらに、アメリカのMaster of Public Healthの認証機関であるCEPH（the Council on Education for Public Health）が必修としている5分野（疫学、生物統計学、医療管理学、行動科学、環境保健学）をカバーするカリキュラムを編成し、世界で通用する教育プログラムとなっている。また、学生の留学・学修形態の多様性に対応するため、オンラインでの入学者選抜及び授業科目のオンライン履修を可能とした。

令和2年4月には、本学医歯学総合研究科博士課程に、保健医療分野における研究者、教育者、及び高度な公衆衛生専門家を養成するためのグローバルヘルスプロフェッショナル（GHP）コースを開設した（完全英語履修）。

リーダー養成のための英語選抜プログラム

生命科学系・国際保健/医療政策・医療産業分野においてグローバルな舞台でリーダーとして活躍し、変革を生み出すことのできる人材を育成するために、完全英語履修のリーダー養成選抜プログラムHealth Sciences Leadership Program（HSLP）を開講しており（学士課程版を平成25年度に、大学院生版を平成28年度に開講）、学士課程全学部学科から優秀で強い志を持つ学生が集まり履修している。プログラムでは医学知識に加え、関連する政治・経済・哲学・社会学など社会科学系知識とその応用力、批判的思考力、探求・分析力、口頭/文書コミュニケーション能力、創造的思考力、リーダーシップスキルなどを含む明確な修了時コンピテンシー設定のもと、ケースメソッドを用いた効果的な自己主導型学習に基づくカリキュラムを構築/運営している。

海外留学機会拡大・留学支援

必須カリキュラムの過密さのため長期間の海外留学は年単位の休学をしない限り難しい中、カリキュラム調整を行い、全学部・学科において、協定締結校や本学海外教育研究拠点との学術・学生交流機会を活用し、研究/臨床実習などの実践的な海外留学機会を多数創出し、学生に提供している。

学部・学科	取組概要 例
医学部医学科	英語圏への診療参加型臨床留学プログラムに加え、アジア圏協定校への見学型臨床留学プログラムを令和元年度に新設。
医学部保健衛生学科	本学海外拠点のガーナにおける短期研修プログラムを平成30年度に新設。
歯学部歯学科	海外からの受入学生と本学学生が相互に交流する機会を学科として平成30年度に設置。
歯学部口腔保健学科	世界大学ランキングトップ校(歯)米国ミシガン大学における短期研修プログラムを平成30年度に新設。

留学生アラムナイ（同窓会）データベース構築

昭和25年～令和2年5月までに入学した学部生、大学院生、大学院研究生（専攻生）等の外国人留学生を対象に、在籍時の情報や卒業・修了後の進路等の情報をまとめた留学生アラムナイ（同窓会）データベースを構築した。今後も入学や卒業・修了の時期に更新し、情報発信・提供など連携を強化するとともに、長期的アウトカム評価も行う。